



ゴミ出し — シカゴの場合 —

Garbage Throwing away in Chicago



両親が住んでいるシカゴでは、ゴミ出しは週に一回だけです（※地域によっては、週に何度か回収するところもあります）

東京の場合は集積スペースが限られているので、大量に溜め込まず、分けて何度も回収するようにして、種類ごとに特化したリサイクルがスムーズに進むように決められているでしょう。

シカゴではふだんの週一回の回収とは別に、サンクスギビング（11月）やクリスマス（12月）などの特別な時期にも回収車がやって来ます。

ちなみに、シカゴでは丸いタイプのゴミ箱は避けた方がいいです。シカゴは風が強いので、丸いタイプだと風でコロコロ転がって、交通の妨げになり、注意されてしまうからです。（笑）

一度に回収する量はとて多く、積み込む車は巨大です。

ゴミの廃棄費用は、住んでいる地域に納めている州税の中からまかなわれていると思います。

＜粗大ゴミ＞がお金を払って捨てるものだとはい、来日するまで知りませんでした。

シカゴだけでなく、アメリカにはゴミの廃棄チケットを買うシステムはありません。

というよりも、ゴミをプラスチック、紙類、電気製品、家具などの種類に分けるシステムがありません。

初めて日本に来るアメリカ人は、「ゴミをそんなに細かく分別する必要があるの?!」とびっくりするかもしれません。

そして、地域ごとの「ゴミ捨て場」というのも、シカゴでは決まっています。自分の家の前に出しておくだけです。

家具などの大きな物も、気にせずにそのままポイポイ出します。

特に学生寮やアパートなどの集合住宅の場合は、誰がそのゴミを出したか特定もむずかしいので、分別しないでいっしょくたに出している人がたくさんいました。それを巨大な車がいっぺんに回収するわけです。



シカゴの街並み。風の強い日が多い

Key



Phrases

- Since we have more space to store rubbish in Chicago, we don't need rubbish to be taken away constantly as in Japan.

シカゴではゴミの集積スペースが広いので、日本ほど頻繁にゴミ収集をしません。

*rubbish ゴミ (garbageやtrashと同じ意味だが、おもにイギリスでよく使われる)



アメリカの分別方法は基本的に2つ、「普通のゴミ」と「リサイクルのゴミ」だけです。

分別が細かくなく、粗大ゴミとして回収しない理由はいくつか考えられます。



◆ゴミ処理方法が違う

日本ではほとんどのゴミを焼却処理しますが、アメリカではそのまま埋めてしまいます。アメリカは土地が広いからです。

焼却する場合は、有害ガスが出るので分別しなければなりませんが、埋めてしまうのなら関係ありません。

◆貧困支援プログラムがさかんだから

街中に「リサイクルボックス」があります。まだ使えそうな不用品を回収するわけです。

ボックスに入れられた品物は、貧困支援救済団体（「救世軍」や「グッドウィル」など）に提供され、きれいに洗われ修理されて、バザーで売られます。



Laura Leisch (ローラ・レイッシュ)

アメリカ、シカゴ出身。言語学を専攻し、アメリカの高校や小中学校で教鞭をとった後に来日。東京都在住。都内の某有名私立女子校の正規職員。企業英語学習プログラム研修にも携わっており、クラブエールではテレフォン英会話レッスンを担当している。

そして、その売上金は貧困支援に活用されます。このボックスは大型スーパーの玄関前に置かれていることが多いです。大学のキャンパス内にもあります。

◆リサイクルショップを利用する人が多い

電気製品や不要な家具など、まだ使える物を粗大ゴミとして捨ててしまうのではなく、リサイクル業者に売る人は多いです。売らずにスリフトショップ※に寄付する人もいます。それらを買う人もたくさん存在しています。リサイクル用品の需要が多いのです。

※スリフトショップ…非営利団体運営のリサイクルショップ



〈イラスト〉イラストAC 〈PHOTO〉写真AC

Key



Phrases

- There is a bigger push in the USA for people to donate items to the needy.

アメリカでは人々に、貧困層への支援物資をすることを強く求められます。

*needy 生活困窮者、貧困層